

Q 校則の見直しについて

いずもびんたろう
出雲敏太郎 議員



A 子どもたちの意見を聞きながら進めたい

問 理不尽なルールを頭から押しつけることは子どもの思考力を奪うことになるのでは。

答 子どもたちが自ら考え判断する力の育成が必要となる。校則の見直しも、貴重な機会の一つと捉えている。

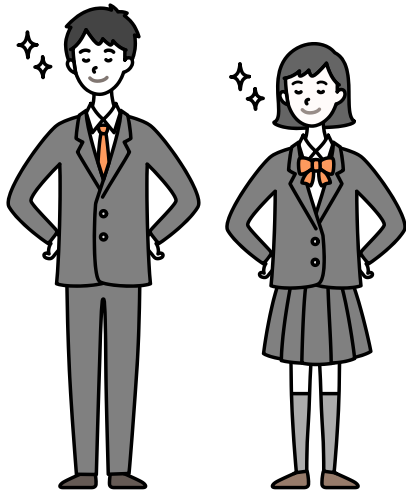
問 髪型などの男女別の規定は、「男・女らしさ」の押しつけで時代に即していないのでは。

答 校則により、植え付けてし

まっている可能性を認識し、子どもたちにとってより良い校則を考えていく必要がある。

問 教員の価値観をアップデートするには、教育以外の様々な現場を見る必要がある、教育以外の時間的余裕が要る。校則の見直しには教員の働き方改革が併せて必要では。

答 働き方改革を進め、教員同士が話し合う時間などを確保し、



その成果を子どもたちに還元できるよう努めていきたい。

問 (仮称)西部中学校について、子どもが主体的に関わって校則づくりを。

答 子どもたちの意見を聞く機会を設けながら進めていきたい。

◎その他の質問

一 多様な働き方が実現できるまちづくりについて

二 国民保護に関する市の対応について

Q 個別避難計画について

まつお たかひこ
松尾 孝彦 議員



A 本市に合った個別避難計画の作成を推進していく

問 本市における個別避難計画の作成状況について。

答 令和4年10月31日現在の個別避難計画の作成者数は236人で、避難行動要支援者の名簿登録者数は1403人、作成率は16・8割である。個別避難計画は、日頃から地域に携わっている鶴ヶ島市社会福祉協議会が実施している心と心をつなげるネットワーク活動、通称「ここつなネット」と協働して、作成に取り組んでいる。

問 今後の取組と課題について。

答 課題として、避難行動要支援者への支援者の高齢化に伴う人手不足がある。地域で防災活動を行う自主防災組織などとの

連携も検討していく。

また、避難行動要支援者は、要介護度の変更や介護施設への入所などによる生活状況の変化も多く、避難行動要支援者名簿の適時の更新も課題である。現在は、手処理で名簿の更新を行っているが、今後はシステムの導入を予定している。今後も国の動向を注視しつつ、本市に合った個別避難計画の作成を推進していく。

◎その他の質問

一 防災教育の取組について
二 ゼロカーボン・ドライブへの対応について



鶴ヶ島第二小学校における総合防災訓練